

令和2年度厚生労働行政推進調査事業費補助金
医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業
分担研究報告書

オンライン診療に伴う緊急避妊薬調剤に関する研修プログラム

研究分担者 亀井 美和子 帝京平成大学薬学部 教授

研究要旨

本研究では、オンライン診療における緊急避妊薬を調剤するために薬剤師が受けるべき研修として令和元年度に作成された標準的な研修プログラムの改訂作業を行うとともに、研修形式を検討し、より活用しやすい研修教材を作成した。

令和2年度以降に開催された薬剤師の研修会は、令和2年度末までに全都道府県で1回以上開催された。その中には、要件を設けたうえでリアルタイムのWeb配信形式で開催されたものもあり、受講者管理上に問題がないことが確認できた。現状からは、当面は都道府県単位での運用が前提となるが、運用主体が明確になれば e-learning システムでの実施も可能と考えられた。そこで、研修形式が対面、Web のいずれにおいても活用できるように、令和元年度に作成した教材の内容を改訂するとともに、研修教材の動画ファイルを作成した。全国のすべての地域で薬局がオンライン診療における緊急避妊薬の調剤に対応できるよう、今後も継続して研修を実施する必要がある。

研究協力者

協力団体

公益社団法人 日本薬剤師会
一社社団法人 日本女性薬剤師会
公益社団法人 日本産婦人科医会
一般社団法人 日本保険薬局協会
一般社団法人 日本チェーンドラッグストア協会

教材作成協力者

公益社団法人 日本薬剤師会 豊見敦先生
公益社団法人 日本産婦人科医会 安達知子先生、宮国泰香先生
一般社団法人 日本女性薬剤師会 小宮山貴子先生
京都大学 SPH 薬局情報グループ 西村亜佐子先生、鈴木渉太先生、岡田浩先生

A. 研究目的

令和元年7月に改訂された「オンライン診療の適切な実施に関する指針」において、初回対面原則の例外として初診からのオンライン診療が可能とされる対象に緊急避妊薬の処方追加され、患者は薬局において研修を受けた薬剤師による調剤を受け、薬剤師の面前で内服すること等が求められることとなった。本研究では、オンライン診療における緊急避妊薬を調剤するために薬剤師が受けるべき研修として令和元年度に作成された標準的な研修プログラムの改訂作業を行うとともに、研修形式を検討し、

より活用しやすい教材を作成することとした。

B. 研究方法

1. 研修形式の検討

令和元年度に実施された「オンライン診療に伴う緊急避妊薬の調剤に関する研修会」はすべて対面による集合研修として行われたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、対面形式での研修会開催が難しい状況となった。また、全国のどの地域でも調剤可能な環境とするためには、地域や日時に影響されることなく希望者が受講で

きる仕組みを作ることが望ましい。一方、研修を受けた薬剤師は厚生労働省のホームページで公表されるため、受講者管理を行う必要があり、現在は都道府県薬剤師会がそれを担っている。各都道府県におけるこれまでの研修会の開催状況を踏まえ、研修形式を検討した。

2. 研修教材の改訂

令和元年度に作成した研修教材は、公益社団法人日本薬剤師会（以下、日本薬剤師会とする）、一般社団法人日本女性薬剤師会（以下、日本女性薬剤師会とする）及び公益社団法人日本産婦人科医会（以下、日本産婦人科医会とする）の協力を得て作成したことから、本年度の改訂作業についても、協力団体がそれぞれ作成した教材の改訂を担当した。また、オンライン診療における緊急避妊薬の調剤の実施に必要な各種様式を作成した。

C. 研究結果

1. 研修形式

令和2年度以降に開催された薬剤師の研修会は、対面による集合研修だけでなく、要件を設けたうえでリアルタイムのWeb配信形式でも開催され、受講者管理上に問題がないことが確認できた。現状において実施可能な研修形式には、①対面による集合研修、②対面とWebを同時に併用する集合研修、③Webで同時に受講する研修、④Web配信動画をオンデマンドで受講する研修があり、運用主体の管理の下で、適切な形式を選択することが望ましい。当面は、都道府県単位での運用が前提となるが、運用主体が明確になればe-learningシステムでの実施も可能である。

2. 研修教材動画の作成

令和元年度に作成した教材の内容を改訂するとともに、研修形式が対面、Webのいずれにおいても活用できるように、研修教材の動画ファイル（mp4形式、DVD形式）を作成した。これらの動画ファイルは、来年度に都道府県薬剤師会に配布予定である。なお、動画の内容は表1のとおりである。いずれの研修形式においても、研修内容が身についたかを受講者が試験等で確認することが望ま

しい。

3. 各種様式の作成

オンライン診療における緊急避妊薬の調剤の手順のイメージ図とともに、実施において必要となる以下の様式を作成した（後掲）。

様式1：緊急避妊薬に関する情報提供書

（医師→薬剤師）

様式2：緊急避妊薬の調剤における薬剤師の対応手順

様式3：薬剤情報提供文書

（薬剤師→患者）

様式4：緊急避妊薬に関する服薬情報提供書

（薬剤師→医師）

D. 考察

「オンライン診療に伴う緊急避妊薬の調剤に関する研修」は令和元年度に作成した標準プログラムに基づいて実施され、令和2年2月から令和3年3月の間にすべての都道府県で1回以上開催されている。この標準プログラムは、令和元年12月に開催した産婦人科医及び薬剤師に向けた研修会の受講者が講師となり対面による集合研修で実施することを想定していたが、令和2年以降の新型コロナウイルス感染症の拡大等により開催が難しい状況となった。

適切に受講者管理を行い、かつ、より多くの薬剤師が受講できるようにするためには、e-learningシステムの導入が望ましいと考えられるが、当面は、都道府県単位でWeb形式などを取り入れた研修を実施することが望ましい。今後は、Web配信形式での研修が増えていくと考えられるが、薬剤師が地域の産婦人科医と連携を深める必要があるのは言うまでもない。

E. 結論

全国のすべての地域でより多くの薬剤師がオンライン診療に伴う緊急避妊薬の調剤に対応するために、今後も継続して研修を実施する必要がある。地域にとって最善の形式を検討し、必要に応じて、本研究で作成した動画教材を活用してほしい。なお、薬剤師の研修においてもe-learningが利用できるように、運用体制や費用の検討が引き続き必要である。

F. 研究発表

1. 論文発表
なし

2. 学会発表
なし

1. 特許取得
なし

2. 実用新案登録
なし

3. その他

G. 知的財産権の出願・登録状況

なし

表1 研修教材の動画ファイル

オンライン診療に伴う緊急避妊薬の調剤に関する研修
1. オンライン診療の適切な実施に関する指針と緊急避妊薬の調剤について (約 9 分)
2. オンライン診療に伴う緊急避妊薬処方上の留意点
(1) 緊急避妊 (約 26 分)
(2) 月経と月経異常および性周期のホルモン調節機序 (約 42 分)
(3) OC 全般と避妊法 (約 47 分)
3. オンライン診療に伴う緊急避妊薬の調剤について
(1) 薬局での調剤の手順について (約 13 分)
(2) 患者対応等について (約 30 分)